



ディレクトリ URI とパターンの管理

この章では、Cisco Unified Communications Manager との間で、ディレクトリ URI、+E.164 パターン、および PSTN フェールオーバールールをインポートおよびエクスポートする方法について説明します。

- [ローカルディレクトリ URI と +E.164 パターンのエクスポート \(1 ページ\)](#)
- [非 ILS システムからのディレクトリ URI およびパターンのインポート \(2 ページ\)](#)
- [Directory URI の形式 \(4 ページ\)](#)

ローカルディレクトリ URI と +E.164 パターンのエクスポート

この手順では、すべてのローカル設定されたディレクトリ URI、+E.164 番号パターン、および関連する PSTN フェールオーバールールを、他のコール制御システムにインポート可能な CSV ファイル形式でエクスポートする方法について説明します。



(注) Cisco Unified Communications Manager は、ローカルクラスタ内で設定されたディレクトリ URI と +E.164 番号パターンのみを CSV ファイルに書き込みます。Cisco Unified Communications Manager には、LDAP ディレクトリからローカルクラスタにインポートされたディレクトリ URI と +E.164 パターンが含まれていますが、ILS を介して学習されたり、サードパーティ URI カタログからインポートされたりしたディレクトリ URI とパターンは含まれません。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[一括管理 (**Bulk Administration**)] > [ディレクトリ URI とパターン (**Directory URIs and Patterns**)] > [ローカルディレクトリ URI とパターンのエクスポート (**Export Local Directory URIs and Patterns**)] の順に選択します。

ステップ 2 次のラジオ ボタンのいずれかをクリックして、エクスポートファイルに付加するドメイン名を定義します。

- [組織の最上位ドメイン (Organizational Top Level Domain)] : エクスポート ファイルのドメイン名として [組織の最上位ドメイン (Organizational Top Level Domain)] エンタープライズ パラメータの値を使用するには、このラジオ ボタンをクリックします。
- [ルート文字列ドメイン (Route String Domain)] : エクスポート ファイルのドメイン名として、[ILS 設定 (ILS Configuration)] で設定された [ルート文字列 (Route String)] フィールドの値を使用する場合には、このラジオ ボタンをクリックします。
- [ユーザ定義ドメイン (User Defined Domain)] : エクスポート ファイルに付加するカスタマイズされたドメイン名を作成するには、このラジオ ボタンをクリックします。

ステップ 3 [ユーザ定義ドメイン (User Defined Domain)] を選択した場合は、[ドメイン名 (Domain Name)] テキスト ボックスにドメイン名を入力します。

ステップ 4 [ローカルディレクトリ URI とパターンのエクスポート (Export Local Directory URIs and Patterns)] ボタンをクリックします。

ステップ 5 CSV ファイルをローカル ドライブに保存します。

非 ILS システムからのディレクトリ URI およびパターンのインポート

ローカルクラスタ上で Intercluster Lookup Service (ILS) を実行している場合、Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) やサードパーティ製コール制御システムなどの ILS を実行していないコール制御システム用の CSV ファイルから (ディレクトリ URI、+E.164 番号パターン、または PSTN フェールオーバー ルールを含む) グローバルダイヤルプラン カタログをインポートするには、次の手順に従います。

この手順を実行するには、ILS ネットワーク内のハブクラスタとして設定されたローカルクラスタ上で Cisco Bulk Provisioning Service が稼働している必要があります。カタログを Cisco Unified Communications Manager にインポートすると、ILS はインポートされたカタログを ILS ネットワーク内の他のクラスタに複製します。



(注) インポートに使用する CSV ファイルに、ご使用の Cisco Unified Communications Manager バージョンとの互換性があることを確認してください。たとえば、バージョン 9.0(1)へのインポート用に互換性がある CSV ファイルは、バージョン 10.0(1)とは互換性がありません。ご使用のリリース用のサンプル CSV ファイルを表示するには、Cisco Unified CM Administration で、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ディレクトリ URI とパターン (Directory URIs and Patterns)] > [ローカルディレクトリ URI とパターンの挿入 (Insert Directory URIs and Patterns)] の順に選択して、[サンプル ファイルの表示 (View Sample File)] をクリックします。



- (注) Cisco Unified CM Administration で、埋め込み二重引用符またはカンマを使用してディレクトリ URI を入力することができます。ただし、埋め込み二重引用符やカンマが付いたディレクトリ URI を含む CSV ファイルをインポートするために一括管理を使用する場合、ディレクトリ URI 全体を二重引用符で囲んで、埋め込み二重引用符を二重引用符でエスケープする必要があります。たとえば Jared, 「Jerry」, Smith@test.com というディレクトリ URI は、CSV ファイルに 「Jared」, 「「Jerry」」, 「Smith@test.com」 として入力する必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[**コールルーティング (Call Routing)**] > [**グローバルダイヤル プランレプリケーション (Global Dial Plan Replication)**] > [**インポート済みグローバルダイヤルプランカタログ (Imported Global Dial Plan Catalogs)**] の順に選択します。
- ステップ 2** [名前 (Name)] フィールドに、カタログの名前を入力します。
- ステップ 3** [説明 (Description)] フィールドに、カタログの説明を入力します。
- ステップ 4** [ルート文字列 (Route String)] フィールドに、カタログをインポートしているシステムのルート文字列を作成します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** Cisco Unified CM Administration で、[**一括管理 (Bulk Administration)**] > [**ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)**] の順に選択します。
- ステップ 7** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 8** [参照 (Browse)] をクリックして、インポートするカタログの CSV ファイルを選択します。
- ステップ 9** [ターゲットの選択 (Select the Target)] ドロップダウンリストボックスから [**インポート済みディレクトリ URI およびパターン (Imported Directory URIs and Patterns)**] を選択します。
- ステップ 10** [トランザクションタイプの選択 (Select Transaction Type)] ドロップダウンリストボックスから [**インポート済みディレクトリ URI およびパターンの挿入 (Insert Imported Directory URIs and Patterns)**] を選択します。
- ステップ 11** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 12** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[**一括管理 (Bulk Administration)**] > [**ディレクトリ URL とパターン (Directory URIs and Patterns)**] > [**インポートしたディレクトリ URL とパターンを挿入 (Insert Imported Directory URIs and Patterns)**] を選択します。
- ステップ 13** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストボックスで、インポートするカタログを含む CSV ファイルを選択します。
- ステップ 14** [インポート済みディレクトリ URI カタログ (Imported Directory URI Catalog)] ドロップダウンリストボックスでは、[**インポート済みグローバルダイヤルプランカタログ (Imported Global Dial Plan Catalog)**] ウィンドウで指定したカタログを選択します。
- ステップ 15** [ジョブ説明 (Job Description)] テキストボックスに、これから実行するジョブの名前を入力します。
- ステップ 16** ジョブを実行するタイミングを選択します。

- すぐにジョブを実行する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] ラジオボタンをクリックして、[送信 (Submit)] をクリックします。
- 指定した時刻にジョブを実行するようにスケジュールする場合は、[後で実行 (Run Later)] ラジオボタンをクリックして、[送信 (Submit)] をクリックします。このオプションを選択した場合、一括管理のジョブスケジューラを使用して、ジョブの実行のタイミングをスケジュールする必要があります。

(注) Cisco Unified Communications Manager は、インポートされたすべての +E.164 パターンを Global Learned +E.164 Patterns パーティションに保存します。

Directory URI の形式

Directory URI は、@ 記号で区切られたユーザとホストアドレスで構成される英数字の文字列です。Cisco Unified Communications Manager は次のディレクトリ URI の形式をサポートしています。

- user@domain (例: joe@cisco.com)
- user@ip_address (例: joe@10.10.10.1)

Cisco Unified Communications Manager は、Directory URI のユーザ部 (@ 記号の前の部分) で次の形式をサポートしています。

- 使用できる文字は次のとおりです。a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9、!、\$、%、&、*、_、+、~、-、=、\、?、\、'、,、,、,、/。
- ユーザ部分は最大 47 文字までです。
- ユーザ部には、%2[0-9A-F] から %7[0-9A-F] までのパーセントエンコーディングを使用できます。使用できる一部の文字に関しては、Unified CM が自動的にパーセントエンコーディングを適用します。パーセントエンコーディングの詳細については、次の項を参照してください。
- URI ルックアップポリシーのエンタープライズパラメータの値に応じて、ユーザ部で大文字と小文字が区別されるか、区別されないかが決まります。デフォルトでは、大文字と小文字が区別されます。

Cisco Unified Communications Manager は、ディレクトリ URI のホスト部分 (@ 記号の後の部分) で次の形式をサポートしています。

- IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名をサポートします。
- 有効な文字は、a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9、ハイフン、およびドットです。
- ホスト部の先頭と末尾にはハイフンを使用できません。
- ホスト部には 2 つのドットを連続して使用できません。

- 最低 2 文字必要です。
- ホスト部では、大文字と小文字は区別されません。

データベースの制約により、Directory URI フィールドの長さは最大 254 文字です。



- (注) Directory URI のユーザ部に電話番号を入力することもできます。ただし、SIP プロファイル用に選択した [ダイヤル文字列の解釈 (Dial String Interpretation)] オプションによっては、Cisco Unified Communications Manager が Directory URI を電話番号として扱う場合があります。



- (注) サードパーティ コール制御システムとの互換性を保つため、URI ルックアップ ポリシーのエントラプライズパラメータの値を大文字と小文字の区別なしに設定することをお勧めします。

Directory URI のパーセント エンコーディング

Directory URI がデータベースに保存される際、この Directory URI のユーザ部に含まれる次の文字に対して、Unified CM は自動的にパーセント エンコーディングを適用します。

#% ^ ` { } | \ : " < > [] \ ' およびスペース

パーセント エンコーディングが適用されると、この Directory URI の桁数が増えます。たとえば、Directory URI として joe smith#@cisco.com (20 文字) と入力した場合、Cisco Unified Communications Manager はこの Directory URI を joe%20smith%23@cisco.com (24 文字) としてデータベースに保存します。データベースの制約により、Cisco Unified Communications Manager は 254 文字を超過する Directory URI を保存しようとする試行をすべて拒否します。

一括管理する場合の Directory URI 形式の例外

Cisco Unified CM の管理ページで、二重引用符またはコンマが組み込まれた複数の URI を入力できます。ただし、一括管理を使用して、二重引用符およびコンマが組み込まれた複数のディレクトリ URI が含まれている CSV ファイルをインポートする場合は、ディレクトリ URI 全体を引用符で囲み、組み込まれた引用符を引用符でエスケープする必要があります。たとえば、「Jared, "Jerry", Smith@test.com」というディレクトリ URI は、CSV ファイルでは「"Jared, ""Jerry"", Smith@test.com"」と入力する必要があります。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。